

R2(2020)年度 上半期

私たちが『気づき・考え・実行した』活動を紹介します!

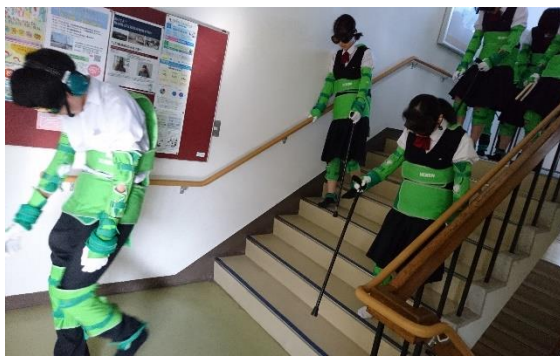
JRC(青少年赤十字)部

あいサポーター研修 Vol.1「心臓移植をされた本校卒業生を招いて」



本校卒業生 めかだ よう 女鹿田 陽 さんと 雲南市社会福祉協議会 より たくさんのことを学びました。移植前は補助人工心臓で、移植後は引き継いだ“命”を大切に、たくさん注意点に気をつけながら、臓器移植の普及のために取り組んでいらっしゃいます。私たちは初めて学ぶことばかりで、初めて気づかされ、初めて考え始めました。毎年10月はグリーンリボンキャンペーン、雲南市役所での企画などにも協力して取り組んでいこうと思います。

あいサポーター研修 Vol.2「不自由な体(装具を着用)で災害時に逃げきる体験」



身体が不自由なことをすべては理解できないけれど、「インフルエンザにうなされている状態が一生続いている」と想像しながら、関節を固定し、全身に重りをつけ、磨りガラス眼鏡や耳栓や軍手等で5感を鈍くし、それでも緊急時には早く逃げきらなければならない、という体験をしました。みんなが、こんなにしんどいと思わなかった、今まで想像したこともなかった、一人じゃ逃げられない人には動ける人がすぐにかけて一緒に逃げなきゃ!誰が? 自分が!と心に誓いました。その後、身を守るための工夫・ワザを実習しました。すぐに活かします!

あいサポーター 18名が登録されました(2020.8.31時点)



まず、障がいについて理解してください

障がいは誰にでも生じ得るものです。
病気や事故はいつ起こるかわかりません。
同様に、障がいはいつでも誰にでも生じ得るものなのです。

障がいは多種多様で同じ障がいでなくても一律ではありません。
障がいの種類も程度もさまざまであり、同じ障がいで、その症状は一律ではありません。
また、複数の障がいを併せ持つ場合もあります。

外見でわかるものだけでなく、外見ではわからない障がいのため、理解されず苦しんでいる方もおられます。
障がいは多種多様であり、外見だけでは障がいがあることがわからないこともあるため、周囲に理解されず、苦しんでいる方もおられます。

周囲の理解や配慮があれば、活躍できることがたくさんあります。
目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があれば活躍できることはたくさんあります。
障がいの種類・程度は人それぞれに違いますが、少しの介助があれば、地域の中で日常生活を営み、障がいのない方と同じ職場で働いている方や、趣味やスポーツなどで活躍している方もたくさんおられます。

そして、こんな配慮をお願いします

障がいのある方に対して冷たい視線を送ったり、見て見ないふりをするのは避けてください。温かく接してください。

困ってそうな場面を見かけたら
「何かお困りですか」と一声かけて、自分でできるサポートをしましょう。
見守ること、時には支える姿勢が大切です。

「障がいがあるから」と決め付けず
それぞれの個性や能力が生かせることを一緒に考えてみましょう。

介助者がいても
介助者ではなく本人に話しかけましょう。

自分のイメージですべての障がい者を見ないでください。
障がいだけを見るのではなく、
その人の全体像を見て接しましょう。

生徒の感想より(抜粋)

私は障がいについてあまり身近に感じたことがなく、知識もほとんどありませんでした。勝手な思い込みで過ごしていたこともあり、反省しました。しかし今回、障がいの実際について学んだことで、初めての気づきがたくさんありました。外見ではわからない内部障がいや、あまり知られていない障がいなどで、不自由な生活のうえに人から理解されていないつらさも併せもっておられることも知りました。でも本当は、前者は福祉の充実で、後者は私たちの配慮で、もっと楽に生活できると思います。私はこれから、見えない障がいもあることを意識して、困っておられる場面では自然にサポートしたり、またサポートしてほしいと声をかけてもらえるような人になりたいと思います。

第1次救命救急法の研修





新型コロナが流行していても、命にかかわる緊急時はいつ起きるかわかりません。まずは自分たちが救急法の知識と技術を身につけておきたいと、日本赤十字社から指導者を招いて研修しました。特に今回は、感染防止のために工夫することも加えて教えてもらえました。今後も研修を積み重ねて、資格取得できるレベルになるまで頑張ります！

豪雨災害義援金 募金活動





このたびの豪雨災害に対して、みんなでもたってもいられず、でも直接被災地へは行くことができないので、募金活動をしました。校内では生徒会ボランティア委員会と一緒に、街頭では UNIT（雲南いのちをつなぐ）と一緒に、募金活動をしました。新型コロナ対策のために、募金箱を手を持たず、大きな声も出さずに行いましたが、たくさんの方が募金してくださいました。さっそく、雲南市社会福祉協議会、日本赤十字社を通じて、被災地へ送ったことを報告します。ご協力ありがとうございました。

千羽鶴を作成し広島平和記念公園へ



平和を願いながら 毎年 千羽鶴をつくって広島平和公園へ奉納しています。
新型コロナウイルスの流行が落ち着いたら、ぜひ現地を訪問したいと思います。